

男子体操競技審判員報告

審判長 近藤 昌夫

第35回全国高等学校体操競技選抜大会が山口県山口市で開催されました。審判会議、監督会議では、男子体操競技情報27号について変更点を解説し、あん馬における交差倒立技の認定が厳格化されたこと、鉄棒の順手背面前後の技における認定やその減点について説明しました。あん馬の交差倒立では実施によっては不認定を受けたものもありました。順手背面の実施も少しずつではありますが増えてきているようです。今大会後に情報27号改訂版をホームページに掲載しましたので、夏のインターハイに向けても確認をお願いします。

競技中に起きた件として、会場全体に非常ベルが鳴るということがありました。偶然ほとんどの種目で演技が終わり、種目移動を待っている状態だったので、特に問題が起きました。進行係りの機転が利いて直ぐに待機するようにアナウンスをしていただけたのも功を奏しました。今後もしいつ何時にこのような状況が起こるかわかりませんが、基本的には安全確認が取れるまで演技をしないで待機しているということには変わりありません。

競技の2班目は上位の個人総合争いが激しく、1種目毎に順位が変化していき、見ているにも手に汗握るような展開でした。最終的に0.10の差で1位と2位を分け合ったことから、その接戦の様子が窺えます。今後も各学校間や選手同士で切磋琢磨し、高校生全体の競技力が上がっていくことを期待しています。

《ゆか》

D1・E1 三富 洋昭

1. 採点上の打ち合わせ事項

- ・2017年版採点規則および情報27号の確認。
- ・技の認定、実施に際してはルールに則り厳密に採点する。
- ・減点が少なく、かつ素晴らしい実施を評価する。
 - *安定した演技実施を基盤に、高められたDスコアを有する演技を評価する。
 - *美しさ、力強さを表現した演技実施を評価する。
 - *着地への準備局面を有し、高い姿勢で意識的に止められた着地の評価。
 - *雄大なタンブリングや正確なひねり技による先取りのある安定した着地。
- ・グループIの旋回技や力静止技において丁寧で美しさを表現する演技の評価。
 - *静止が求められる技においては厳密に判定する。
- ・ひねりを伴った宙返りの連続では、明確なひねりの終了を示して次の宙返りに連続すること。
- ・跳躍技と跳躍技の間のコレオグラフィ的な動きにも意識をした演技にも着目する。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・前方宙返りひねりは、伸身局面が見られない実施や膝のまがりが見られた実施はA難度と判定した。
- ・宙返りの連続において、2つ目の技で大過失と判定した場合は組み合わせ加点なしとした。
- ・ひねり不足については厳密に判定し、90°以上の不足の場合は低い難度で認定した。

3. その他特記事項

■得点上位者（3位まで）の演技構成

1位 平松 航河（市立船橋） 14.400 D：5.9 E：8.500

後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり（ⅢE）、前方伸身宙返り1回ひねり（ⅡC）－前方伸身宙返り5/2ひねり（ⅡE）、後方伸身宙返り5/2ひねり（ⅢD）－前方伸身宙返り2回ひねり（ⅡD）、後方伸身宙返り2回ひねり（ⅢC）、前後開脚座、伸腕屈身力倒立（ⅠB）、後方伸身宙返り3/2ひねり（ⅢC）－前方伸身宙返り3/2ひねり（ⅡC）、後方伸身宙返り3回ひねり（ⅢD）

2位 安達 太一（市立船橋） 14.250 D：6.0 E：8.250

前方屈身2回宙返り（ⅡE）、前方伸身宙返り1回ひねり（ⅡC）～前方伸身宙返り5/2ひねり（ⅡE）、後方伸身宙返り5/2ひねり（ⅢD）～前方伸身宙返り2回ひねり（ⅡD）、後方伸身宙返り2回ひねり（ⅢC）、フェドルチェンコ（ⅠC）、後方伸身宙返り3/2ひねり（ⅢC）～前方伸身宙返り3/2ひねり（ⅡC）、後方伸身宙返り3回ひねり（ⅢD）

3位 橋本 大輝（市立船橋） 14.100 D：5.6 E：8.500

後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり（ⅢE）、前方伸身宙返り1回ひねり（ⅡC）～前方伸身宙返り2回ひねり（ⅡD）、後方伸身宙返り3/2ひねり（ⅢC）～前方伸身宙返り3/2ひねり（ⅡC）、後方伸身宙返り2回ひねり（ⅢC）、フェドルチェンコ（ⅠC）、後方伸身宙返り5/2ひねり（ⅢD）～前方伸身宙返りひねり（ⅡB）、後方伸身宙返り3回ひねり（ⅢD）

■Dスコア・Eスコア

・Dスコア 6.0（3名）、5.9～5.5（11名）、5.4～5.0（26名）、4.9～4.5（13名）、4.4～4.0（4名）、

3.9（1名）、0.0（2名）

・Eスコア 8.55～8.50（4名）、8.45～8.00（18名）、7.95～7.50（18名）、7.45～7.00（6名）、6.95～6.50（8名）、6.45～6.00（2名）、5.95～5.70（2名）、0.00（2名）

・2回宙返り技の実施

グループⅡ：前方かかえ込み2回宙返り（D）14名

前方屈身2回宙返り（E）11名

グループⅢ：後方かかえ込み2回宙返り（C）17名

後方伸身2回宙返り（D）1名

後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり（D）10名

後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり（E）6名

4. 所感

Dスコアの最高が6.0、Eスコアの最高が8.55、上位10名のうち1年生が4名と健闘を見せた。終末技において着地の止まった選手は、3名、一方手を着く、転倒するなど1.0の減点を受けた選手は9名であった。全体として着地の不安定さが目立った。ほとんどの演技構成の中に、組合せ加点0.1の宙返り連続技を2シリーズ入れており、0.2の組合せ加点を構成した演技は4演技であった。いずれも後方伸身宙返り5/2ひねり～前方伸身宙返り2回ひねり（D+D）の組み合わせであった。Eスコアにおいては空中局面における脚の開きや姿勢欠点、宙返り連続技の1回目の宙返り技の高さやひねり不足、一つ一つの着地等における減点が機械的になされる傾向である。また着地の取り方、着地の姿勢がポイントとなっている。着地後に止まったことを表現する捌き、演技全体と

して減点がなく、かつ雄大さと美しさを持った演技が求められる。

《あん馬》

D1/E1 大門 景

1. 採点上の打ち合わせ事項

採点規則・競技規則について

- ・2017年版採点規則および情報27号の確認。
- ・安定した演技実施を基盤に、美しさ、力強さを表現し減点のない動きだけでなく、魅せる捌きを評価する。
- ・腰高で大きく振り回った、向きの正確な旋回技を評価する。
- ・力を使うことなく倒立位に上昇し、倒立位でひねり終えている、大きさのある終末技を評価する。
- ・技の不認定となる場合の確認
 - *技を行なった後次の技に入り、明確にコントロールされている実施を技として認定する。
 - *交差倒立系については、両手が一把手上で支持された時に馬体より脚が上昇していない場合は不認定とする。また、馬体より上に脚があっても腕より前に足先が出ている捌きは不認定とする。
- ・減点に関する確認
 - *縦向き移動技については、向きを確認し向きに応じた減点を行う。
 - *交差技や片足振動での大きさ不足の減点は、捌きの大きさによって減点なしから0.3までの減点の対象である。
 - *倒立位を経過する技で倒立への上昇局面で足先が下がった場合は、0.1から0.5(不認定)までの減点対象である。
- ・ニュートラル・ディダクションについての確認
 - *馬体の3部分を使用しない場合0.3のニュートラル・ディダクションとなる。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・「逆交差倒立」において、倒立に持ち込む際に脚が支持腕よりも前に出てしまった実施は不認定とした。
- ・「トンフェイ」や「把手上下向き転向」の直後に次の技に繋がらず落下してしまった実施を不認定とした。
- ・「下向き逆移動倒立下り」において、倒立で肘が90°以上曲がってしまった実施は不認定とした。
- ・「開脚旋回縦向き3/3後ろ移動」において、馬端で早く足を閉じてしまいD難度で認定とした。

3. その他特記事項

■得点上位者(3位まで)の演技構成

1位 54 橋本 大輝(市立船橋) 14.45 D:5.9 E:8.55

逆交差倒立(ⅠD)、Eフロップ(ⅡE)、Dコンバイン(ⅡD)、トンフェイ(ⅢD)、ロス(ⅢD)、一把手上旋回(ⅡB)、開脚旋回縦向き3/3前移動(ⅢE)、開脚旋回縦向き3/3後ろ移動(ⅢE)、縦向き前移動1/4ひねり(ⅢB)、下向き逆移動倒立ひねり3/3部分移動下り(ⅣD)

2位 60 北園 丈琉(清風) 14.05 D:5.5 E:8.55

逆交差倒立（ⅠD）、横向き旋回（ⅡA）、アイヒホルン（ⅡE）、横向き旋回1回ひねり（ⅡD）、開脚背面横移動連続（馬端～馬端）（ⅢC）、開脚旋回縦向き 3/3 前移動（ⅢE）、開脚旋回縦向き 3/3 後ろ移動（ⅢE）、一把手上旋回（ⅡB）、把手上下向き転向（ⅡB）下向き逆移動倒立ひねり 3/3 部分移動下り（ⅣD）、

3位 55 安達 太一（市立船橋） 13.95 D：5.4 E：8.55

逆交差倒立（ⅠD）、E フロップ（ⅡE）、D コンバイン（ⅡD）、ロス（ⅢD）、一把手上旋回（ⅡB）、縦向き 3/3 前移動（馬端-把手-把手-馬端）（ⅢC）、シバド（ⅢD）、縦向き前移動 1/4 ひねり（ⅡB）、把手上下向き転向（ⅡB）、下向き逆移動倒立ひねり 3/3 部分移動下り（ⅣD）

■Dスコア・Eスコア

- ・Dスコア 5.9～5.5（5名）、5.4～5.0（4名）、4.9～4.5（15名）、4.4～4.0（16名）、3.9～3.5（12名）、3.4以下（8名）
- ・Eスコア 8.55以上（4名）、8.50～8.00（15名）、7.95～7.50（11名）、7.45～7.00（13名）、6.95～6.50（7名）、6.45以下（10名）

■実施された主な技（D 難度以上の認定された技）

【グループⅠ】 D：逆交差倒立・正交差倒立・ブライアン（24名）

【グループⅡ】 E：アイヒホルン（1名）、E フロップ（14名）

D：D フロップ（14名）、D コンバイン（16名）、横向き旋回1回ひねり（2名）縦向き旋回1回ひねり（1名）

【グループⅢ】 E：開脚旋回縦向き 3/3 前移動（5名）開脚旋回縦向き 3/3 後ろ移動（4名）

D：マジヤール（8名）、シバド（37名）、ロス（16名）、トンフェイ（2名）

【グループⅣ】 E：下向き逆移動倒立 45° ひねり 3/3 部分移動下り（6名）

D：下向き逆移動倒立ひねり 3/3 部分移動下り（33名）

ロシアン 1080° 転向下り（1名）

4. 所感

今大会は、各校の冬場の取り組みが様々なところに見える大会であった。交差倒立の厳格化に伴い、多くの選手が難度を下げた交差技に置き換えたり、交差倒立を習熟して良い実施にしたりすることが感じられた。また、開脚旋回での 3/3 移動に挑戦する選手が昨年より増加したように感じられた。閉脚旋回での 3/3 前移動の技では、マジヤールではなく馬端-把手-把手-馬端の捌きで行い、難度を下げても減点の少ない正しい捌きを意識した演技が多く見られた。しかし、難度落とすのではなく、把手間に手をついてもスリや向きの減点の無い捌きが出せるように、継続して練習に励んでいただきたい。

全体を通して交差倒立や倒立下りで力を使い、腰がまがってしまったり、停滞してしまったりという演技はまだ多く見られた。これからのシーズンに向けて改善される取り組みに期待したい。

《つり輪》

D1・E1 吉田 義経

1. 採点上の打ち合わせ事項

- ・2017年版採点規則および情報27号の確認。
- ・演技全体として力強さ、技の正確さ、美しさを表現した演技を評価する。
- ・倒立や静止技での正確な姿勢と静止時間においては、相応の減点がされる。
- ・着地への準備局面を有し、意識的に止められる終末技を評価する。
- ・高校適用規則が適用される項目の確認。
- ・評価に関すること。

＊一般条項、つり輪特有の減点項目、ニュートラルディダクションの確認

＊技の不認定となる場合の確認

力静止技や振動からの力静止技における角度・静止技における静止時間（静止なし）、肘まげによる捌きや静止姿勢、倒立で倒れる、グループⅡ・Ⅲの連続4技目以降、特別な繰り返し等

＊技の分割について

- ・着地における減点なし、0.10・0.30、最大減点は1.00まで。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・不認定と判定した技

＊後ろ振り上がり開脚水平支持は、開脚水平支持において静止姿勢がみられる前に腰のまがり
が90°を超えたものについて総合的に判断した。

＊輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂に持ち込む際に46°以上の角度の逸脱があり、支持のみ
られた捌きについて総合的に判断した。

＊振動倒立技は静止姿勢がなく倒れたもの、45°を超える脚の下がりについて総合的に判断し
た。

＊伸腕屈伸力倒立(ⅡB)は、肘のまがりがありケーブルに寄りかかりながら倒立へ持ち込んだ捌
きについて屈腕屈伸力倒立(ⅡA)と判定し、実施減点を与えた。

3. その他特記事項

■得点上位者（3位まで）の演技構成

1位 48 榊原 拓弥（鯖江） 13.650 D：5.6 E：8.050

後ろ振り上がり中水平支持(ⅢE)、アザリアン(ⅡD)、後ろ振り上がり開脚水平支持(ⅢC)、
ほん転逆上がり倒立(ⅠC)、ジョナサン(ⅠD)、ヤマワキ(ⅠC)、輪の高さで前方宙返り
直接十字懸垂(ⅢD)、後ろ振り上がり支持、脚前拳支持、伸腕屈伸力倒立(ⅡB)、伸腕ほ
ん転逆上がり倒立経過(ⅠB)、後方伸身2回宙返り2回ひねり下り(ⅣF)

2位 60 北園 丈琉（清風） 13.600 D：4.8 E：8.800

け上がり脚前拳支持(ⅢB)、十字懸垂(ⅡB)、後ろ振り上がり開脚水平支持(ⅢC)、ほん
転逆上がり倒立(ⅠC)、ジョナサン(ⅠD)、ヤマワキ(ⅠC)、後ろ振り上がり倒立(ⅠC)、
伸腕ほん転逆上がり倒立経過(ⅠB)、後方伸身2回宙返り2回ひねり下り(ⅣF)

3位はゼッケン順に記載

3位 51 金田 希一（市立船橋） 13.550 D：5.4 E：8.150

後ろ振り上がり中水平支持(ⅢE)、け上がり支持、中水平支持(ⅡD)、後ろ振り上がり開
脚水平支持(ⅢC)、ほん転逆上がり倒立(ⅠC)、ジョナサン(ⅠD)、ヤマワキ(ⅠC)、輪
の高さで前方宙返り直接十字懸垂(ⅢD)、後ろ振り上がり支持、脚前拳支持、伸腕屈伸力倒
立(ⅡB)、伸腕ほん転逆上がり倒立経過(ⅠB)、後方かかえ込み2回宙返り3／2ひねり下
り(ⅣD)

3位 55 安達 太一（市立船橋） 13.550 D：5.1 E：8.450

アザリアン(ⅡD)、後方屈伸懸垂回転、ほん転逆上がり倒立(ⅠC)、前方車輪倒立(ⅠC)、
ジョナサン(ⅠD)、ヤマワキ(ⅠC)、輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂(ⅢD)、後ろ振
り上がり支持、脚前拳支持(ⅡA)、伸腕屈伸力倒立(ⅡB)、伸腕ほん転逆上がり倒立経過(Ⅰ

B)、後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り (IVE)

■Dスコア・Eスコア

・Dスコア 5.5以上 (1名)、5.0~5.4 (6名)、4.5~4.9 (26名)、4.0~4.4 (18名)、
3.5~3.9 (7名)、3.0~3.4 (1名)、0.0 (1名)

・Eスコア 8.50以上 (1名)、8.00~8.45 (16名)、7.50~7.95 (18名)、7.00~7.45 (9名)、
6.50~6.95 (13名)、6.00~6.45 (1名)、5.50~5.95 (1名)、0.00 (1名)

■実施された主な技 (D 難度以上の認定された技)

【グループⅠ】 D: ジョナサン (48名)

【グループⅡ】 D: 中水平支持 (6名)、アザリアン (5名)、

【グループⅢ】 E: 後ろ振り上がり中水平支持 (3名)

D: 輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂 (21名)

【グループⅣ】 F: 後方伸身2回宙返り2回ひねり下り (2名)

E: 後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り (8名)

D: 後方伸身2回宙返り1回ひねり下り (15名)、

後方かかえ込み2回宙返り3/2ひねり下り (8名)、

前方屈伸2回宙返り下り (5名)

■着地 ・止めた選手数 (12名) ・転倒した選手数 (8名)

■技の不認定 ・11名 (13技)

■技数 ・10技 (31名) 9技 (22名) 8技 (6名)

4. 所感

高校生において競技力の高い選手が集うこの大会は、シーズンに向けての方向性が示されることから、様々な観点で競技を拝見することができた。

演技前一人30秒の練習時間を遵守する意識は、12組中4組 (1班2班とも2組ずつ) がコール時に練習が終了していた。また、4組 (2班のみ) がコール時に最終演技者の練習中で、残り4組 (1班のみ) がコール後に最終演技者が練習をスタートした。不認定となった技については、グループⅠの振動倒立技が6演技、そのうち2演技でNDの対象となった。グループⅡの中水平支持が1演技、グループⅢの輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂と後ろ振り上がり開脚水平支持で5演技あった。グループⅡ・Ⅲの力静止技では、高校適応規則において加点の対象となるD難度以上を2技実施した4選手、E難度を含む3技実施した2選手は、いずれもDスコア5.0以上であった。終末技においては、E難度が8演技、国内でも数少ないF難度が2演技あったことは評価したい。また、F難度を実施した2選手が、種目別においても1位と2位を独占した。小・中欠点をみると、難度表にない技での2秒以上の停滞や着地をはじめ、脚前挙を含む力静止技での姿勢や時間、倒立や力静止技の姿勢に持ち込む段階での肘のまがりやベルトへの寄りかかり、体の反り、終末技の姿勢や着地の準備など、この観点によるものであった。脚前挙の姿勢や難度表にない技での2秒以上の停滞における減点などをはじめとし、これらは普段の練習から意識して取り組んでもらいたく、得点を上げるためには欠かせないものである。その上で、夏のシーズンに向けてDスコアを高める取り組みを期待したい。

《跳馬》

D1/E1 高橋 義憲

1 採点上打ち合わせた事項

- ・2017年度版採点規則および情報27号の確認
- ・雄大さ姿勢欠点、軸ブレに対する減点の確認

【全体として】

- *安定した演技実施を基盤に、高められたDスコアを有する演技
- *美しさ、力強さを表現した演技実施
- *着地への準備局面を有し意識的に止められる技

【種目特有の評価のポイント】

- *安定感・確実性のあるDスコア 5.6以上の超越技
- *準備局面を示した意識的に静止に持ち込める跳躍
- *空中局面での膝まがり・足の開きに対して厳しく採点する。
- *カサマツ系での垂直面からの外れについて厳しく採点する。

2 採点上起こった事項とその処理

- ・第2局面でひねりを有する演技が殆どであった。中には姿勢不良やひねりの不足の演技もあったが、採点規則上その姿勢が明記されていない（かかえ込みと伸身姿勢しかなく屈伸姿勢がない、ひねり不足も90度以内）実施で選手本人が意図したDスコアで対処した。

3 その他特記事項・意見・感想等

【実施された技】

伸身カサマツ	13名
伸身カサマツひねり	5名
アカピアン	23名
ドリッグス	10名
ロペス	2名
前転とび前方伸身宙返り2回ひねり	1名
伸身ユルチェンコ1回ひねり	3名
伸身ユルチェンコ2回ひねり	2名
0点	1名
計	60名

大半の選手がグループⅡからの跳越技となり、その他のグループからの跳越技でも第2局面にひねりを伴うものであった。種目特有の評価のポイントのところにも記述したように足割れや脚の開き、軸ぶれなど美しく、正確に実施をするというところに観点をおき採点にあたった。その中で気になった点は、グループⅡを実施した選手で第一局面での脚の開きをなくそうと意識している実施が少なく感じた。また、着地局面での余裕をもった着地というのも少なく感じた。これからのトレーニングで克服してもらいたい。今大会ロペスが2名の選手によって実施された。非常に雄大で着地の位置も高い実施であった。

今大会を通じて感じた今後の課題等について

今回、ライン減点は60名（演技実施数59名）のうち16名（0.10:6名 0.30:10名）が減点されていた。ライン減点の要因はさまざまな事が考えられるので、練習場所に戻ってから再確認が必要であろう。

《平行棒》

D1/E1 森 直樹

1. 採点上打ち合わせた事項

採点規則・競技規則について

- ・2017年版採点規則および情報27号の確認。

- ・ウォーミングアップは各選手に対し 50 秒が与えられ、タイマー表示をして伝える。
- ・ウォーミングアップ後に、第 1 演技者に対して最大で 1 分間の器械準備の時間を与える。

D スコアについて

- ・静止技において静止がみられない実施は不認定とする。
- ・実施された技がコントロールされずに（器械上に）落下したものは不認定とする。
- ・終末局面が倒立位の技において 45° を超える逸脱がある実施は不認定とする。

E スコアについて

- ・「前振り上がり」や「け上がり」、「モイ」については大きさを求め、支持の際に腰が下がるものは減点の対象となる。
- ・終末局面が倒立位の技においての角度逸脱による減点は厳密に行う。
- ・「後ろ振り倒立」は振動を有効に使い、伸身姿勢を保って倒立まで持ち込まなければならない。「後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持」や「ヒーリー」などの後に力を使ったり、腰をまげたりして倒立に持ち込むものは減点の対象となる。
- ・静止技における静止時間については厳密に判定する。静止時間が短い、または静止がみられない実施は相応の減点の対象となる。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・「伸腕屈身開脚力倒立」において、倒立に持ち込む際に脚が下がった（戻った）実施は不認定とした。
- ・「チップルト」において、脚部がバー上にのったものは器械上の落下とし、不認定とした。
- ・「前振りひねり倒立」において、倒立でコントロールできずに落下したものは不認定とした。
- ・「脚前拳支持」や「伸腕屈身開脚力倒立」において静止がみられない実施は不認定とした。
- ・「ヒーリー」における支持の際に肘が深くまがった実施は不認定とした。
- ・「マクーツ」においてコントロールされずに腕支持になった実施は、マクーツにおける失敗と判定し、不認定とした。
- ・「棒下宙返り倒立」において肘を深くまげて倒立に持ち込んだ実施は不認定とした。
- ・「前振り上がりひねり倒立」において肘を深くまげて倒立に持ち込んだ実施は不認定とした。

3. その他特記事項・意見・感想等

平行棒の技は倒立で完了するものが多く、実施される一つ一つの技における倒立のおさめ方によって結果的に E スコアに大きな差が出る。今大会では「前振りひねり倒立」や「棒下宙返り倒立」の角度逸脱による減点や、「後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持」や「ヒーリー」の後の「後ろ振り倒立」での力の使用や停滞などの減点が多かった。また、「後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持」や「ヒーリー」などといった支持で完了する技に続く「後ろ振り倒立」から、再び振り下ろして次の技を実施する場合は、「後ろ振り倒立」の 2 秒の静止が求められるが、静止時間が不足した実施が多く見られた。その他にも、「脚前拳支持」や「伸腕屈身力倒立」における静止時間不足による減点も多く見られた。

これからも、角度減点の無い安定した倒立技の実施と、振幅の大きさや雄大な空中局面を示した振動技の実施を目指し、日々のトレーニングに励んでいただきたい。

《鉄棒》

D1・E1 花北 圭

4. 採点上の打ち合わせ事項

- ・2017 年版採点規則および情報 27 号の確認。

- ・安定した演技実施を基盤に、高められた D スコアを有する演技を評価する。
- ・美しさ、力強さを表現した演技実施を評価する。
- ・着地への準備局面を有し、意識的に止められる終末技を評価する。
- ・雄大な手放し技や正確な終末技を評価する。
- ・倒立位を経過する技、ひねりを伴う振動技での角度減点の少ない実施を評価する。
- ・その他
 - * エンドー・シュタルダー・ワイラーの開始局面で倒立位からの逸脱は減点対象となるが、アドラー系の技については開始局面で倒立位から行う必要はない。
 - * 後方とび車輪 1 回ひねり（クースト）でひねりが完了していなく片手ずつ握るような実施は減点となる。
 - * 手放し技や終末技の前の車輪での膝まがり実施は減点となる。
 - * 順手背面懸垂前振り上がり後方浮腰回転倒立（ケステ）の最終局面で足を抜いたのち、即座にシュタルダーに持ち込む場合、倒立に収めなくても減点にはならない。ただし、技の捌き次第による技術欠点、姿勢欠点は相応に減点される。
 - * 後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂（Ⅲ-81）は、後半の後ろ振り出しの局面でバーを越える時点では脚上挙支持の体勢であり、腕と上半身の角度が 45 度を超えて開いていることを求める。それを満たさない場合、減点対象とする（わずかに不足：0.10、不足：0.30）。バーを越えてから振り出された場合は 0.50 の減点となる。バーに身体が触れてからの実施は A 難度で認定とする（国内対応）。

5. 採点上起こった事項とその処理

- ・ヤマワキは、上昇の仕方、腰のまがり具合、ひねりの度合いを総合的に判断した。明らかな腰のまがりが見られた場合や、表現が著しく乏しい実施はボローニン（B 難度）と判定した。
- ・手放し技において、バーを握る前に身体の伸ばしが不十分な捌きや、膝のまがった実施、身体が歪んだまま懸垂になるものは実施減点とした。
- ・後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり下り（D）において宙返りの後半に腰が大きくまがった実施は、後方かかえこみ（屈身）2 回宙返り 1 回ひねり下り（C）と判定した。

6. その他特記事項

■得点上位者（3 位まで）の演技構成

1 位 近藤 衛（日体大荏原） 14.000 D : 5.5 E : 8.500

ヤマワキ（ⅡD）、コールマン（ⅡE）、伸身トカチェフ（ⅡD）、トカチェフ（ⅡC）、エンドー（ⅢB）、ツォ・リミン（ⅠC）、アドラー（ⅢC）、アドラーひねり倒立（ⅢD）、シュタルダー（ⅢB）、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り（ⅣE）

2 位 北園 丈琉（清風） 13.700 D : 5.7 E : 8.000

ヤマワキ（ⅡD）、エンドー（ⅢB）、アドラーひねり倒立（ⅢD）、コールマン（ⅡE）、伸身トカチェフ（ⅡD）、トカチェフ（ⅡC）、後方浮腰回転後ろ振り出し順手背面懸垂（ⅢC）、順手背面車輪（ⅠD）、ケステ（ⅢC）、後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り（ⅣE）

3位 矢野 雄大 (清風) 13.450 D : 5.1 E : 8.350

ヤマワキ (ⅡD)、エンドー (ⅢB)、伸身ピアッティ (ⅡE)、伸身トカチェフ (ⅡD)、トカ
チェフ (ⅡC)、シュタルダー (ⅢB)、シュタルダーひねり倒立 (ⅢB)、アドラー (ⅢC)、
大逆手車輪 (ⅠB)、後方伸身2回宙返り1回ひねり下り (ⅣD)

■Dスコア・Eスコア

- ・Dスコア 5.5～5.9 (5名)、5.0～5.4 (9名)、4.5～4.9 (22名)、4.0～4.4 (17名)、
3.5～3.9 (5名)、3.0～3.4 (1名)、0.0 (1名)
- ・Eスコア 8.50～8.95 (1名)、8.00～8.45 (13名)、7.50～7.95 (22名)、7.00～7.45 (14
名)、
6.50～6.95 (8名)、6.00～6.45 (0名)、5.50～5.95 (1名)、0.00 (1名)

■実施された主な技 (D 難度以上の認定された技)

【グループⅠ】 D : 順手背面車輪 (5名)、リバルコ (1名)

【グループⅡ】 G : カッシーナ (1名)

E : コールマン (9名)、伸身ピアッティ (2名)

D : ヤマワキ (50名)、伸身トカチェフ (15名)、コバチ (8名)、ピアッティ
(2名)、

リンチ (1名)

【グループⅢ】 E : アドラー1回ひねり逆手倒立 (3名)

D : アドラーひねり倒立 (18名)、シュタルダーとび 3/2 ひねり片大逆手 (5名)、
エンドー1回ひねり大逆手 (3名)、アドラー1回ひねり片逆手倒立 (1名)

【グループⅣ】 E : 後方伸身2回宙返り2回ひねり下り (19名)

D : 後方伸身2回宙返り1回ひねり下り (37名)

4. 所感

春先の大会ではあるが、Dスコアについては各選手とも冬場の練習の成果を発揮した大会にな
ったのではないかと感じた。出場選手60名のなかで、Dスコア5.0以上の選手は14名 (昨年17
名、一昨年18名)、最高Dスコアは5.7 (昨年5.6、一昨年5.5) であった。D 難度以上の技の出現
数を昨年度と比較すると、グループⅠ (1→6)・Ⅱ (69→88)・Ⅳ (51→56) が増加し、グループ
Ⅲ (37→30) が減少している。手放し技の連続は見られなかったが、グループⅡが19技も増加し、
角度で減点されやすいグループⅢ (シュタルダーとび 3/2 ひねり片大逆手など) が減少していたこ
とから、選手とコーチがDスコアを上げつつ減点されにくい技を選び、演技を構成していることが
伺えた。

一方、Eスコアについては、美しく丁寧な演技を意識している選手と、技を実施することで精一
杯の選手との差が大きかった。手放し技や終末技前の車輪での膝まがり、手放し技後の車輪での肘
まがり、倒立位を経過する技やひねりを伴う振動技での角度等だけでなく、シュタルダーやアドラ
ー開始時において、つま先や膝のまがりの目立つ選手が非常に多かった。角度に対する減点に注意
が向きがちになるが、つま先・肘・膝等、日々の「美しい体操」に対する意識の積み重ねが、美し
さ・雄大さ・力強さを表現し、魅了する技捌きまで昇華することを期待する。